

日韓学術文化青少年交流事業訪韓団第1団（派遣プログラム）の記録 （対象国：韓国，テーマ：教育現場視察及び意見交換）

1. プログラム概要

日本全国から選抜された若手の小学校・中学校・高等学校の教育関係者20名が韓国を訪問し、教育現場視察、教育関係者との懇談、ホームステイ、韓国文化体験などを通して韓国への理解を深めるとともに、日本の魅力（文化・国民性等）や教育事情の発信等、日韓の相互理解と信頼関係の増進に寄与することを目的として活動しました。また、帰国前の報告会では、本訪韓経験を活かした帰国後のアクション・プランについて発表しました。

【訪問地】

韓国ソウル特別市，城南市，龍仁市，安東市，慶州市，釜山広域市

2. 日程

8月29日（火）金浦国際空港から入国

【講義】日本人が経験した韓国・韓国文化，【視察】八角亭

8月30日（水）

【表敬訪問】国立国際教育院訪問，【学校訪問・懇談】ジャムヒョン初等学校

【視察】三星ディライト

8月31日（木）

【学校訪問・懇談】東栢中学校

【文化体験】韓服試着，【視察】景福宮，国立民俗博物館，北村韓屋村

9月1日（金）

【学校訪問・懇談】首都女子高等学校，【文化体験】韓国伝統汗蒸幕

【表敬訪問】在大韓民国日本国大使館公報文化院訪問，【視察】仁寺洞，

9月2日（土）

【文化体験】ナンタ公演鑑賞，【視察】明洞，【交流】ホームステイ対面式

9月3日（日）

終日ホームステイ

9月4日（月）

【視察・文化体験】安東河回村，郷土料理作り

9月5日（火）

【慶州市内視察】仏国寺，石窟庵

9月6日（水）

【釜山市内視察】太宗台，国際市場，カントン市場，
成果報告会

9月7日（木）金海国際空港から帰国

3. プログラム記録写真



8月29日【講義】日本人が経験した韓国・
韓国文化（ソウル特別市）



8月30日【学校訪問】ソウルジャムヒョン
初等学校（ソウル特別市）



8月31日【学校訪問】東栢中学校
（京畿道龍仁市）



8月31日【視察】北村韓屋村
（ソウル特別市）



9月1日【学校訪問】首都女子高等学校
(ソウル特別市)



9月2日【交流】ホームステイ対面式
(ソウル特別市)



9月4日【文化体験】郷土料理作り
(慶尚北道安東市)



9月4日【視察】安東河回村
(慶尚北道安東市)



9月5日【視察】仏国寺
(慶尚北道慶州市)



9月6日【視察】太宗台(釜山広域市)

4. 参加者の感想（抜粋）

◆ 日本 団員

これまで、日本人は日本語だけで日本から出なくても良いという古い考えを持っていましたが、今回の訪問を通じて国際理解や異文化交流の大切さを学ぶことができました。これを機に、自分の子どもや生徒たちにもっと世界に目を向けることの大切さを伝えていきたい。

◆ 日本 団員

学校訪問やホームステイでの人との触れ合いを通じて、人々の温かさに触れることができた。メディアだけの情報で勝手に韓国のイメージを持っていた自分が恥ずかしくなった。ホームステイでは歴史問題等も腹を割って話すことができ、顔と顔を合わせて話すことの大切さを実感した。

◆ 日本 団員

言葉の壁があったため、自分の思いを相手に伝えようと必死だった。そしてその努力の甲斐もあり、少しずつ話せる言葉も増えた。今回の訪問を通じて、相手に思いを伝えることの難しさ、伝わったときの喜びを再確認することができた。

◆ 日本 団員

学校訪問では、日本と韓国の教育事情を多面的に知ることができた。日本の部活動の良さを感じ、日本の教育について誇りを持てるようになった。また韓国のIT教育の進歩は日本ももっと見習うべきところだと感じ、韓国の応用力の高さを知ることができた。

5. 受入れ側の感想

◆ 受入れ事務局（大学生）

日程前半にずっと訪韓団に同行していたため、韓国のこと、日本のことを色々話すことができた。日本語があまりできないため、会うまでは先生方とコミュニケーションがとれるか不安だったが、積極的に話しかけてくれたのでいつの間にかその心配も消えていた。韓国のことを伝えるだけでなく、日本についても沢山知ることができ、とても良い経験になった。

◆ 訪問高校（教員）

私自身が訪日団に参加した際とても良い経験ができ、それをきっかけに日本への関心が高まった。訪問して下さった団員の皆さんにも、今回の本校での交流を通じて、韓国を知っていただき、興味を持ってもらえたら嬉しい。またこの訪問は、本校の生徒、教員にとっても良い刺激になったと思う。

◆ ホームステイホストファミリー

受入れ前は、言葉の問題があるのでうまくコミュニケーションをとれるか心配だったが、子どもたちがすぐになついたため、終始楽しく過ごすことができた。団員の方からは日本のこと、地元の名物などについて説明してもらい、日本のことを身近に感じる事ができた。子どもたちにとって、日本に関心を持つ良い機会になったと思う。

6. 参加者の対外発信

	
<p>日本の魅力についてホストファミリーに紹介することができました。私は愛知県の有名な料理について話し、お土産を渡しました。</p>	<p>韓国で日本を発見！</p>

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

	
<p>10 日間の日程を振り返ると共に、各種視察やホームステイを通じての成果及び帰国後のアクションプランについて発表した。アクションプランの具体的な内容として、個人のブログや SNS を通して活発な発信を行う、今回の訪韓経験を授業やレポートを通じて生徒や教職員と共有する、生徒たちや地域の若者が韓国を訪問し、交流ができるように今後活動をする、などの発表が行われた。</p>	